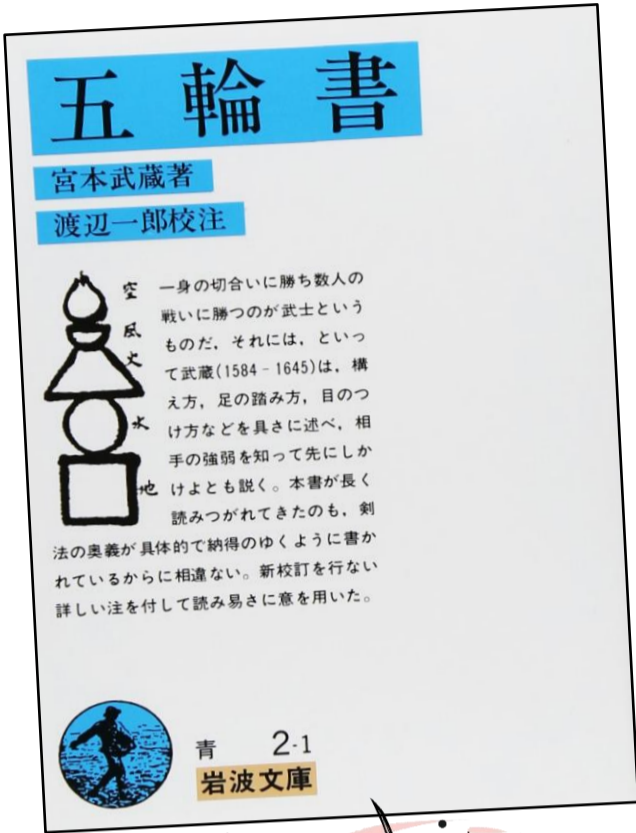


# あなたに薦める『この一冊』12月



ごりんのしょ  
「五輪書」宮本武蔵（著） 岩波書店

家庭科教諭 大久保寛  
中学 2年2組  
副担任



宮本武蔵とは、日本の剣道史上に最も高名な、江戸時代初期の剣豪です。晩年武蔵は、自身が剣を通して会得した極意を後世に伝えようと「兵法指南書(戦い方指導書)」を執筆しました。それがこの『五輪書』です。一見すると単なる武芸書ですが、そこに書かれる理論・思考・価値観は、現代を生きる我々の生活にも役立つものばかりです。つまり、本書は人生の様々な局面を戦い抜くためのヒントを与えてくれる「生活哲学書」としても捉えることができるのです。今回は私のお勧めの箇所を一つ、現代語訳してご紹介します。

### 【水ノ巻 心の持ちようのこと】

『心の持ち方にはよく気を配ること。体の動作にいちいち気を奪われないようにし、心の充実に努め、といっても必要以上の余裕が生じるようにしてはならない。外見は弱々しく感じられたとしても、心の奥の信念はあくまでも強く、それでいながら、その本心を相手に嗅ぎ取られないようにしなければならない。心が濁ることのないように視野を広げ、様々を学び、その上で既成概念に囚われずに判断すべきである。』

武蔵は気取った物の言い方を嫌ったとされており、五輪書（原文）も同年代の文章と比較すると読みやすく書かれています。ただ、中々取っ付きにくいところもあると思いますので、岩波文庫版を底本とした現代語訳本もご紹介しておきます。『いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ⑤ 五輪書/城島明彦 訳』。皆さんの人生の一助となれば嬉しく思います。

## 宮本武蔵豆知識

[1584~1645]江戸初期の剣豪。名は玄信のほか、政名、義恒などが伝わる。二天と号す。平田（新免）無二斎武仁の子。美作国または播磨国の生まれという。若年から諸国を修行し、生涯六〇余回の勝負に一度も敗れたことがなかったといわれ、巖流島で佐々木小次郎を倒したことは名高い。二刀による剣法を工夫し、「二天一流」を創始、武道の奥義を説く「五輪書」を著わした。絵画や彫刻にもすぐれ、「枯木鳴鶉（めいげき）図」などが伝えられている。 出典：日本国語大辞典

## さらに彼にせまってみよう 本校図書館・他館所蔵関連図書

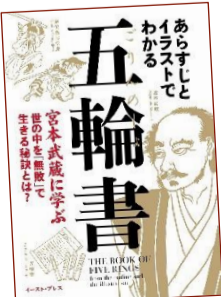
- 宮本武蔵：「兵法の道」を生きる 魚住孝至（著） 岩波書店

武蔵については信用できる史料がきわめて少ない。「巖流島」「佐々木小次郎」「吉岡一門との勝負」——ひとり歩きする虚構を排したところに見えてくる実像とは？

「天下一」をきわめながら、「なをもふかき道理を得ん」と「兵法の道」を求めつづけた一人の真摯な武芸者の姿を、『五輪書』を核によみとく。

- あらすじとイラストでわかる五輪書

知的発見！探検隊（編集） イースト・プレス



3尺の白刃に命をあずけた時代から脈々と受け継がれた戦法、それはあらゆる勝負ごとにも通じ現代社会を乗り切るヒントにもなる。日本で最も有名な剣豪の決闘と生涯、極意が記されたその兵法書のすべてがわかる、宮本武蔵に学ぶ「無敗」の秘訣。

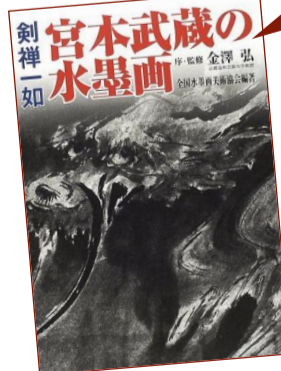


### ★大久保 寛(オオクボ ヒロシ)先生の紹介★

- \*担当科目・クラス  
家庭科(中1年~3年)  
家庭基礎(高2年1組、2組)
- \*星座 → 射手座
- \*趣味 → 剣道・弓道・ラジオ
- \*自分の中学・高校生活  
剣道の稽古を沢山していました。家庭科の教員を志したのもこの頃です。
- \*本校生の印象  
目を見て挨拶をしてくれる生徒が多いと感じています。
- \*感動した本  
『まあまあの日々』群ようこ[著] KADOKAWA
- \*読むことが望ましい本  
『こころ』夏目漱石[著] KADOKAWA[他]

- 宮本武蔵の水墨画 全国水墨画美術協会（著）

秀作社出版



### 摂南大学図書館所蔵資料

宮本二天の水墨画は、先行する武人画家の余技的な水墨画と比較して、異質な気迫を示している。武人画家の系譜の中で語られる位置づけではなく、独立した画人としての二天に焦点を当てる。

編集後記：左図、数ある武蔵の肖像画で最も古い作品「宮本武蔵肖像」では、彼は白い小袖に赤地の胸肩衣、両手に長短の二刀を持った姿で描かれています。現代でもコントラストが際立つ装いですが、決して華美ではありません。画家も宮本武蔵の「気取らなさ」を描き出そうとしたのかもしれませんがね。